

# 巻頭に寄せて 東南アジアと 真空産業への想い

日本真空工業会 理事  
中川 佳治



昨年の1月からタイに身を置き、東南アジアでの真空関連事業に携わり早や1年強、この地域の多様性を理解するにはまだ道半ばですが、この機会をお借りして東南アジアと真空産業の未来を俯瞰してみることにします。

タイへ来てすぐに感じたのは日本ブランドへの絶対的な信頼でした。それも盲目的な、ある意味で宗教に似た信頼です。これを当初は自動車産業を基軸に日本が行った「産業植民地化の成功」と考えましたが、そんな一言で語れるようなものではありませんでした。

東南アジア諸国には大凡日本人が理解しがたい基本心理が存在します。タイは昨年、プミポン国王の崩御から数ヶ月は全国民が服喪一色になったようにやはり本当の王国です。タイの周辺国はムスリム国家が多くここには絶対的な神が存在します。また、タイ以外の国は植民地支配を受けています。異なる色合いに見えますが、国民は自分の周りの環境は絶対的な存在から「与えられる」と考える基本心理は同じです。

この基本心理は個人の行動を色濃く支配します。ほとんどの労働者は方針、判断、命令をともなう働く環境は与えられる、仕事は自ら進めるのではなく「誰かが進めてくれる」又は「誰かが進め方を決めてくれている」と考えています。

これだけであれば、杓子定規に考えればしっかりしたマニュアルを「与えれば」仕事が進みそうな気がしますが、現実には言葉だけのマニュアルなど全く役にたちません。

これは、東南アジア地域の言語が日本語、英語、中国語など先進国言語に比べ圧倒的にボキャブラリーが足りない未熟なものであることに起因します。Face-to-Faceで表情、ゼスチャー、声色などを感じながらでなければ物事が正確に伝えられない言語です。タイ語は、動詞の現在過去未来の変形はありませんし、少ないボキャブラリーを発音で補い同じ言葉に多数の意味を持たせてきた結果日本人には発音できない特徴的かつ多様な発音言語となりました。この言語環境が元となり「目で見ただけのしか信じない」言いかえると「見えないものが想像できない」思考特性まで生んでしまいました。

東南アジア諸国には、このような基本土壌が存在します。

タイを基軸に1960年代頃から始まった日本の産業植民地化の時代は、日本企業も発展途上であり、欧米的マニュアル主義での労働指示や技術技能伝承教育は不完全なものでした。当時の先人の方々は、日本的徒弟制度と呼ぶのが相応しい

Man-to-Man、Face-to-Faceで現地スタッフを育てていました。これが、東南アジア諸国の基本心理や基本土壌に完全にマッチしたのでしょう。それで、タイを基軸に東南アジアにおける日本の産業植民地化は欧米に比べ圧倒的に先んじることができました。但し、この成功はタイを第二の日本として日本製品を「生産」できるようにする、あくまでプロダクトアウトな面での成功です。

当時はこういった背景もあり日本製品は圧倒的アドバンテージを持っていました。現在も尚アドバンテージはあります。しかしながら、時の経過とともに、現在では東南アジアには日本企業だけではなく欧米、韓国、中国など諸外国の資本による生産工場は元より、現地資本による生産工場も多々運営されており、東南アジアの現地の方々が実際に多様な国の様々な生産機器を使っています。また、工場運営の現地スタッフ化もここ数年で飛躍的に進んでおり、現地スタッフが「使う」から「選ぶ」時代にも入っています。日系企業でも日本人無しでの仕様確認や購買交渉なども当たり前です。こういった環境下で日本製品のアドバンテージは、日本製品以外の製品も実際に見て選び使い感じることで、「日本製品は絶対に良い、でも他の国の製品も使える」というぼやっとしたものになっている様に感じます。今後の現地のスタッフに「選ばれる」製品として依然として課題になるのが、「見えないものが想像できない」思考特性です。特に、我々真空産業の製品は真空中で何が起きているのかを直接目にするのが難しく、ロジックを理解することが困難です。本当に東南アジアの方々が理屈を理解するハードルが高い分野です。

これからの東南アジアでは、日本ブランドをより強固なものとするための一つの解としては、日本のアドバンテージが消えないうちに、単独の企業毎の取り組みだけでなく、より良いものをロジカルに見極める力を持った現地のエンジニアや次世代のエンジニアとなる学生などの育成を政策的に進めていくことも肝要です。東南アジア諸国には真空工業会の様な実際に自ら機能する専門分野の工業会や学会は皆無と言ってよい状況です。一企業に限らず、日本の工業会や学会の素晴らしいノウハウ、そのDNAを引き継いでいける場所がここにもあります。

(新明和工業株式会社 産機システム事業部付  
ShinMaywa (Bangkok) Co., Ltd. Managing Director)